

MBA 論述ファンダメンタル 第1講

ビジネススクール（MBA・MOT）入試の仕組み

1. 小論文試験の目的

学習、および修了後の実務に対応できる思考力・表現力を確かめるのが目的である。

【例】慶應義塾大学大学院（KBS）

本研究科が行う入学試験は、入学後において履修を求められる全教科の内容を十分理解・習得し、それらについて高い学習成果を収めうる潜在能力が有るか試験することをねらいとしたものであって、経営管理に関する各分野の専門的知識および技能の有無を試験するものではありません。それらの専門的知識および技能は、本研究科の課程を修める間に十分習得が可能です。（2016年度募集要項 下線は筆者）

【例】早稲田大学大学院（WBS）

どのようなバックグラウンドを有する人であれ、本研究科のカリキュラム・ポリシーに賛同し、自己の将来に向けたビジョンを明確に描き、その実現に向けて意欲と情熱をもって継続的な努力を惜しまない人を受け入れる。（2016年度募集要項 下線は筆者）

∴ ビジネスパーソンとして備えるべき知識（テキストレベル）があれば問題ない。

加えて、普段から新聞や雑誌記事に目を通し、ビジネスへの理解を深めていく。

筆記試験で専門的知識を問うビジネススクールを志望する者は、テキストレベルの知識を確実に押さえ、過去問を解きつつ知識を補充してほしい。

【例】首都大学東京大学院

経営戦略論、経営組織論、マーケティング、会計学、マネジメントサイエンスから一科目を選択し、解答してください（2016年度募集要項）。

筆記試験で基礎能力、研究計画書で専門知識のレベルを問う方式もある。

【例】筑波大学大学院

・ 研究計画書

問題意識、研究のアプローチ、専門的知識のレベル、研究の実現可能性および独創性、文章表現能力を評価します。

・ 小論文試験

ビジネスや社会の諸問題に対する関心の広さと理解の深さ、論理的思考能力、文章表現能力を評価します。（2016年度募集要項 下線は筆者）

2. 小論文試験の位置づけ

受験者自身の人物像を知る機会となる出願書類や口述試験が重視される。

小論文試験は入学後の学習に耐えうる「論理的に考え、表現する」力が問われる。

Cf. 学部入試

MBA・MOT 小論文の書き方

1. 「論理的に書く」とは？

- ・ ビジネススクール（MBA・MOT）入試のねらい

出願書類や試験（筆記・口述）を通じて、大学院教員に自身を受け入れてもらうこと。

↓

自身の志望動機やキャリアゴールなどを、筋道を立てて説得する。 = 「論理」

- ・ 小論文試験では…

思考の結果をできる限り、一貫した、飛躍の少ない、理解しやすい形で表現する。

2. 文と文を上手につなぐ —— 接続表現

読み手（採点者）が理解しやすくするための工夫として、接続表現を使う。

（1）解説

- ・ 「すなわち」、「つまり」、「言い換えれば」、「要約すれば」
- ・ それまで述べた表現をまとめる、あるいは言い換えるための接続表現。

（2）根拠

- ・ 理由を示す表現：「なぜなら」、「というのも」、「その理由は」、「…ので」、「…から」
- ・ 帰結を導く表現：「それゆえ」、「したがって」、「だから」

（3）例示

- ・ 「たとえば」

（4）付加

- ・ 主張を付け加える接続表現

- ・ 「しかも」

主張 A からある帰結 C を導くとき、「しかも B」と付加することで帰結を強める。

例：この本は分厚い。しかもむずかしい。だから、私はこの本が嫌いだ。

- ・ 「むしろ」

否定的主張に肯定的主張を付加することで、肯定的主張を強める。

例：かぜ薬を飲んだのに熱が下がらない。むしろ、ひどくなっている。

- ・ 「そして」

単に文をつなぐだけなので、省略されることが多い。

(5) 転換（逆接・対比）

- ・ 「しかし」、「だが」など、これまでの主張と対立する主張をつなげる。
- ・ どちらが言いたいことなのかを意識して使うこと。

(6) 補足

- ・ 「ただし」

例：1. この店はうまい。しかし、高い。 … 「高い」ことが主張

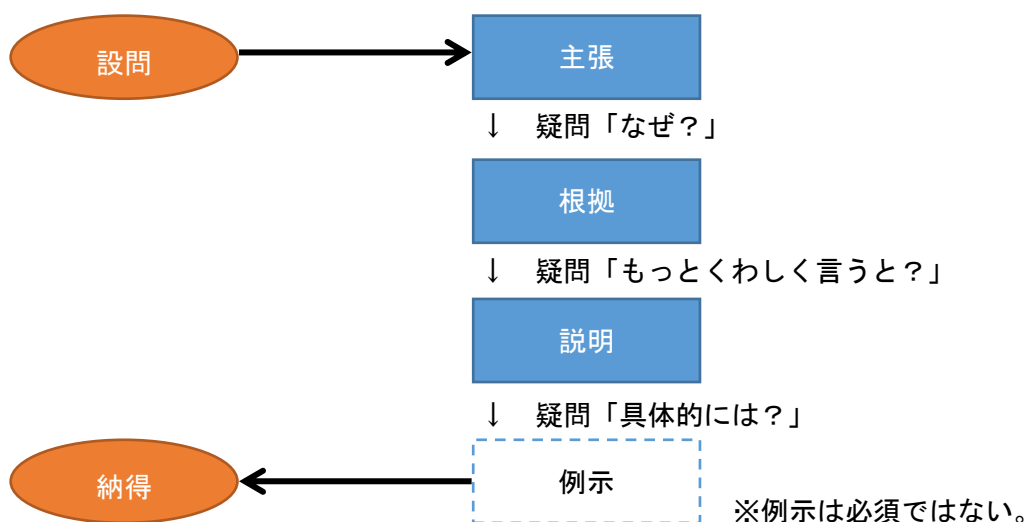
2. この店はうまい。ただし、高い。 … 「うまい」ことが主張

(7) 「…が」

- ・ あいまいな表現なので、なるべく使用は避ける。

例：いくつか課題があるが、あなたの原稿は面白いと思う。今日は帰宅するが、明日話し合う時間はありますか。

3. 論理の基本構造



(1) 設問と主張

- ・ 「何が問われているか」を正しく捉えているか。 → 設問と結論との整合性

(2) 根拠

- ・ 根拠は大まかな考え方を述べる。いくつあげるかは、制限時間や字数による。
- ・ いわゆる「価値観の押しつけ」は不可。
例：筆者の主張に反対である。なぜなら、筆者の主張は面白くないからである。
- ・ 事例を直接、根拠とすることはできない。

(3) 説明

- ・ 簡潔に述べた理由について、そのプロセス・メカニズムを細かくわかりやすく述べる。
- ・ 知識を並べるだけでは根拠とならない。
- ・ モレ・ダブりに注意する。 …… MECE (Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive)

(4) まとめ

基本は主張を繰り返せば問題ない。書くうちに考えが変わっていないか。

4. 小論文のスタイル

設問に応じて、基本構造を柔軟に変える。

以上